平成　３０年　２月　２０日

# 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号　1429022023

氏　　名　森岡　広美

論文審査員

主　査（職名）　須釜　淳子（教授）　印

副　査（職名）　稲垣　美智子（教授）　印

副　査（職名）　北岡　和代（教授）　印

論文題名　Investigation of the Influence of Mentors in the Workplace Environment of Nurses, including Associated Occupational Stress and Willingness to Continue Working

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究の目的は、日本の看護師を対象に、メンターの存在に関する実態を調べること、さらにメンターの存在が職場環境や職業性ストレスにどのような影響をおよぼすか、また看護師の就業継続意思への影響を検討することであった。質問紙法により横断的にデータ収集を行った。7 病院に勤務する全看護師 1,517 名を対象とした。有効回答数は 1,275 票（平均有効回答率＝95.0%）であった。メンターは日本版 Mentoring Functions Questionnaire-9 items、職場環境は日本版 Arear of Worklife Survey (AWS)、職業性ストレスは日本版バーンアウト測定尺度 Maslach Burnout Inventory-General Survey (MBI-GS) を用いて測定した。看護師の就業継続意思は、独自に作成した尺度を用いて測定した。

約 6 割の看護師がメンターを持っていた。特に、20 歳代や 30 歳代の看護師の中でメンター持つ割合が、40 歳代以上の看護師と比べて高く、メンターを持つ看護師のほうが、就業継続意思が有意に高かった。AWS で測定した職場環境に関しては、仕事の負担を除く裁量権、報酬、共同体、公平性、価値観の 5 つの側面による職場適合状態が有意に高かった。また、MBI-GS に関しては、メンターのいる者の疲弊感とシニシズムが有意に低く、逆に職務効力感が有意に高かった。最終的に共分散構造モデル解析の結果、メンターは、看護師の職場環境の中でも共同体に影響を、また職務効力感に影響をおよぼしている最終モデルが選ばれた。就業継続意思との関係については、メンターは今勤務している部署で働き続けたいとの間に因果関係のあるモデルが選択された。

【審査結果の要旨】

看護師のメンターの存在による職場環境や職業性ストレスへの影響、さらに就業継続意思との関連について検討した研究は海外においてもほとんど報告されておらず、独自性が高く、学術的な意義が高い研究成果を得たと評価できる。また、この研究テーマに関する段階的な発展が、今後さらに期待できる。公開審査では、いずれの質問にも適切な応対がなされた。

以上、学位請求者は本論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。